

郵政省 電気通信局 電気通信事業部 事業政策課

「IT革命を推進するための電気通信事業における競争政策の在り方」担当御中

私はNTTOB（57才、男性）で、線路設備の計画、設計、建設および保守を担当していました。この間、ユニバーサルサービスについて、いつも悩んでいました。

15年程前、本社で仕事をしていたときに、東京都内では電柱1本で14軒の電話線が配線され北海道の旭川では電柱7本で1軒の電話線が配線されていたと記憶しています。

四国の離島を保守している電話局で電話機故障のとき、故障修理担当者は離島へ一日一便の船に乗り故障修理を行い、空き時間には巡回点検、修理などをして夕方の船便で帰ってきたそうです。

天候によっては、次の日でなければ帰ることができない状況を聞いて唖然といたしました。

しかし、ライフラインである通信の確保のため、経費を度外視したユニバーサルサービスの大切さを再認識した次第です。

現在は、住まいの近くにある、インターネットサービスプロバイダーで仕事をしております。NTT生活の後半では線路設備業務関連のシステム開発を担当していたことから、再就職をすることができました。

この会社ではローカル地域のCATV放送事業とCATV設備建設保守事業をおこなっております。地元の社員で構成され、全国均一化されたNTTの給与体系等とは大幅に低くなっております。この現状をとらえて、ユニバーサルサービスについて意見をまとめてみました。

ユニバーサルサービス提供のための技術力等

CATVインターネットを提供するため、現在、第一種電気通信事業の申請を行っているところです。社員には電気通信（線路、交換）の主任技術者、電話工事担任者の有資格者とCATV工事者（同軸、光ケーブル）があり、電話工事経験者もいます。さらに電力工事、電気工事他の資格取得者と経験者もおります。

このことから、技術力は有しており、さらに会社の近くに住んでいることから、災害等の時の駆け付け時間も少なく十分なサービスを提供しております。

コスト負担等

賃金は地域の労務費がベースになっており、さらに、通勤費、労務対策費、フローアー代金などは低額となっております。

地域にマッチした工夫

- ・地下埋設の深度などを浅く 地下埋設物の関連法令の見直し
 - ・架空設備の地上高を低く 道路交通/電気通信/電力他の関連法令の見直し
 - ・現在、発生しはじめたコンクリートポールのひび割れ劣化がきたしている。
 - ・外国と見比べて見劣りのする蜘蛛の巣状の架空ケーブル類は景観上、精神衛生上からも早期の地下化が必要である
 - ・経費は莫大になりことから低深度の埋設方法の確立が必要である。
- これらを具現化するには、地域で複合的に対応できる会社が必要であり安価な建設投資と安価な固定資産が実現できると思います。

- ・CATV、電気、電話などを同時施工
- ・他の複合業務の実施等

等の弾力的な工夫で経費の低減化が可能である

その他（地域特性、ノウハウ）

地元対策、地形、道路事情等については地域密着していて、地域事情には精通している。

また、地域の人達とは旧知の関係から信頼関係は強いことから苦情等によるトラブルの回避がされている。

反面、NTTという組織では地域とは垣根があり、お客様は強く、虚勢をもって対応してくることから、私の経験では苦情処理対応に多く稼働を必要とした。

地域の会社としては、「しょうがねーか・・・」と言うケースが多く見られ、苦情処理が短く、この労務費軽減に繋がります。NTTでは許せないけど、地元の企業ならやむを得ない。こんな状況を見ますと地元企業であることから責任を持って対応もしなければならない等の相乗効果も期待できるところです。

これらの現状をとらえての対応策

- ・工法、手段等はローカル地域の会社に任せること。
- ・入札制度により行政またはNTTなどと保守契約を行う。
- ・全て任せるのではなく、技術基準は116番などでNTTがキチンとチェックする。

やがては、高齢化社会のなかでNTT社員の第二の職場を地元で確保することも可能と考えられます。給与は安価であるが地域への貢献にも繋がることから働き甲斐のある職場になると考えられます。

さらに面的設備の非効率から維持メンテ経緯費が多く掛かる地域には、行政および都市部での収益をローカル地域に補填する方法もあるのではないかと考えます。

以上 思いつくまま、書きつづりました。

乱文乱筆にて失礼いたします。

2000.9.19

萩原直機